

1. 経緯・背景

[日本スポーツ振興センター\(JSC\)](#)の報告によると、学校におけるスポーツ眼外傷は年間**約4万件**発生している。発生数は中学生がもっとも多く、次いで高校生、小学生の順であり、競技種目別の内訳は野球(含軟式)が一番多く、次いでテニス(含ソフトテニス)、バスケットボール、サッカー・フットサル、ソフトボールの順である。主な原因は”ボール等が当たる”、”他者と接触”、”転倒・落下”、”バット等が当たる”となっている。



3

1. 経緯・背景-2

米国眼科学会(American Academy of Ophthalmology:AAO)は、アメリカでは年間に42,000件以上のスポーツやレクリエーションによる眼外傷が発生しているが、この内の9割は適切な保護具で防ぐことができると表明している。

* AAOは1980年設立(前身組織は1896年設立)の世界中の3200名以上の眼科医からなる米国の学会団体であり、その活動([Eyesmartプログラム](#)等)を通じて、スポーツにおける眼の保護の重要性を以下のように啓発している。

- すべてのアスリートは、その重篤な傷害をさけるために適切なアイプロテクターを使うべきである。
- スポーツ種別とその眼外傷のリスクに応じて、該当するASTM認証製品を使うべきである。(補足資料1)

* [アイガードの例\(投影のみ\)](#)

4

1. 経緯・背景－3

* JSCのデータ掲載

平成29年度版の「学校管理下の災害」データ統計によると、運動指導(体育)、活動時の眼部への災害給付件数(医療費の支払い)は、44798件となる。

これには、水泳、体操、陸上競技、球技、武道、その他すべてが含まれる

小学校	運動指導	4,689
	部活動	362
中学校	運動指導	16,095
	部活動	12,133
高等学校	運動指導	9,536
	部活動	6,514
高専学校	運動指導	100
	部活動	58
合計		44798

1. 経緯・背景－4

このうち球技を種目別にまとめたものが以下の表です。学校体育・部活動時の眼部への傷害は、そのほとんどは球技によるものであるとことがわかります。(44798件中の43266件)

競技種別	小学体育	小学部活	中学体育	中学部活	高校体育	高校部活	高専体育	高専部活	競技別計
野球(含軟式)	171	93	3187	3240	1659	1669	17	16	10052
サッカー・フットサル	569	66	1734	1096	1543	819	18	8	5853
バドミントン	106	3	1036	788	885	568	3	1	3390
ソフトボール	156	46	1425	691	848	314	6	0	3486
バスケットボール	469	95	2184	1429	1309	800	18	7	6311
テニス(含ソフトテニス)	11	2	3000	3076	1154	935	8	8	8194
ラグビー	16	0	56	55	366	349	10	9	861
バレーボール	51	6	886	613	386	187	6	2	2137
ハンドボール	33	1	352	177	431	343	6	5	1348
卓球	29	4	356	360	54	33	0	0	836
ドッジボール	274		223		114		2		613
ポートボール	64		0		0		0		64
ホッケー	6	1	14	13	45	42	0	0	121
学校・指導別計	1955	317	14453	11538	8794	6059	94	56	43266

2. 基準作成の必要性と目的

- スポーツ眼外傷は頻度が高く、打撲・骨折等と異なり後遺症に至ることがあり眼の保護は重要である。(次頁参照)
- 日本においてはスポーツ眼外傷を防ぐ方法としての保護具は米国ほど認知されていない。
- 日本においては、ASTMに合格した製品が販売されている一方で、インターネット通販等では製品規格の表示のない製品や、安価なプラスチックレンズを使用しているような安全性の確認できない製品も販売されている。
- 眼科医や一部の事業者等から、日本の安全基準制定が望まれている。

* 本委員会において、日本の安全基準(SG基準)を作成し、あわせて教育現場と競技者団体等の協力を得て、スポーツ競技者の眼外傷を防ぐものとする。

7

2. 基準作成の必要性と目的-2

* JSCによる平成17年度以降の後遺症が残った事故事例の累計数(傷害件数が10未満の競技種別は省略)

競技種別	障害件数
野球(含軟式)	355
サッカー・フットサル	165
バドミントン	68
ソフトボール	35
バスケットボール	34
テニス(含ソフトテニス)	29
ラグビー	18
バレーボール	15
ハンドボール	13
柔道	10

8